

全県共通事業 新たに2つの重点メニュー

すべての公衛協で実施を！

1万人の
エコチェック事業

低炭素社会実現へ まずは委員がCO2 把握



エコチェックカードおもて (左)、うら (右)

具体的な取り組み内容は、「電気・ガス」について、九月の約一カ月間、家庭における省エネ活動を実施。取り組んだ成果は、前年同月分の使用量との差により、削減量として評価を行う。一カ月間の電気やガスの使用量は、毎月届く「使用量のお知らせ(料金表)」によって把握することが可能であるとともに、前年同月分の記載があるため、比較が容易となっている。

事業の実施にあたっては、公衆衛生推進協議会(以下、公衛協)という、市町・支部・地区・学区の単位で七月末まで受け付け、申請のあった公衛協に対しエコチェックカードを配布する。エコチェックカードは、各家庭の取り組み項目と、電気やガスの削減量を記載するだけの簡潔なものとしている。なお、一人のエコチェック事業内容及びカードの記載方法については、七月八・九日に開催する環境

保健夏季大学や、七月中旬の公衛協活動研究セミナーにおいて随時周知する予定。県下で実施した削減結果については、公衛協単位に集計を行い、十一月に三原市で開催する第五十一回広島県公衆衛生大会の席上で報告することで、今後の普及活動につなげる。

将来的に、このエコチェック事業は年間を通じて継続できるものとするほか、電気・ガスにとどまらず、二酸化炭素排出係数の高いガソリンや灯油、水道についても拡大する予定。さらに、これらの削減結果を二酸化炭素排出量に換算するなど、段階的に内容を充実させていく。

なお、今年度は、公衆衛生推進委員を限定に実施するが、来年度以降は、公衆衛生推進委員の働きかけによって、学校や町内会などにもエコチェック事業を拡大し、地域全体で二酸化炭素を削減する意識を高めてもらいたい。

平成二十二年度から全県共通事業重点メニューとして新たに二事業がスタートした。重点メニューとは、環境・健康について全県的に推進していくため、市町公衛協単位だけでなく支部・地区・学区公衛協で実践できるプログラムである。今夏では、「一人のエコチェック事業」「公衛協発ウォーキング事業」について概要を紹介する。

日本は、温室効果ガス排出量を二〇二〇年までに一九九〇年比で二五%削減するという目標を掲げた。これを受けて環境省は二五%削減達成に向けて「チャレンジ25キャンペーン」を開始。オフィスや家庭などにおける二酸化炭素(CO₂)の排出が少ない生活スタイルの提案や、地球温暖化防止を推進するための国民運動を展開している。このような「低炭素社会の実現」が求められている今日、新たに、家庭から排出される二酸化炭素の削減を目的に一人のエコチェック事業を開始する。

一年目は、活動主体を県内約一万人の公衆衛生推進委員に限定して実施。「できるだけ多くの推進委員が省エネ活動に参加、効果を数値的に見える化する」を目標に事業を展開していく。

公衛協発 ウォーキング事業

環境点検しながら健康づくり ナップサックなど提供

生活習慣の改善、最も身近で定期的に取り組みやすい運動、それがウォーキング(徒歩)である。県が策定する健康増進計画「健康ひろしま21(平成二十年三月改定)」によると、広島県民の一日の平均歩数は、成人男性七千四百八十七歩、成人女性七千二百二十九歩となっている。男性については、全国平均七千五百三十二歩と同程度、また女

性は全国平均の六千四百四十六歩を上回っている。この現状をより向上させ、県民の健康増進を図るために、健康ひろしま21では、一日あたり成人男性九千二百歩以上、成人女性八千三百歩以上という目標数値が挙げられている。

こうした背景から、新たな重点メニューのひとつ「公衛協発ウォーキング事業」では、公衛協が主体となったウォーキングを実施。この事業では、二つのコースを設けている。まず、すでにウォーキング事業を展開している公衛協を主

体とした「オリジナル事業実践コース」。これまでの実施要領に基づき事業を実施し、その旨を環境協へ申請・報告していただくというもの。

二つ目に、これから新たに取り組む公衛協が主体となっていく「環境点検コース」。このコースでは、公衛協の活動テーマである「環境」と「健康」の視点を持ったウォーキング事業を実施する。

「環境点検コース」は、公衛協スタッフによってウォーキングコースを選定することから始まる。地域内の環境面が気になりな場所、また、アドブレットひろしま、水辺教室などといった公衛協事業に取り組む場所などを歩き、チェックポイントを定める。その際、環境点検表を使いながら、推進委員は「視・聴・嗅・味・触」といった人間の五感を使い、ポイント毎に良いところや悪いところをチェックする。その結果を踏まえ、市民におすすみたいウォーキングコースを決定する。

実施概要を定め、一般参加者を募集してウォーキングを実施。ウォーキングの中では、チェックポイントによってその場所をよく知る人の解説や昔話、クイズや出し物といったイベントを盛り込むなど、公衛協らしさを活かすことが最大の鍵となる。公衛協活動のPRを行うのも良いだろう。ゴールでは、ウォーキングコースについて参加者同士で意見交換し、評価を行い、最後に歩いた歩数を全員で確認する。以上が事業のおおまかな流れである。

なお、公衛協発ウォーキング事業を実施する公衛協へは、「オリジナル事業実践コース」「環境点検コース」ともに、支援グッズとして「ナップサック(一団体につき二十個)」と歩数計(一個)を提供するほか、必要に応じてベスト・腕章の貸し出しを行う。

市民・町民のウォーキング促進に向けて、参加者の安全に十分配慮しながら、ぜひ多くの公衛協がこの事業を実践してもらいたい。

実施概要を定め、一般参加



安芸太田町で行われた自然散策ウォーキング(平成21年度)

食の安全・安心をめざした「広島県食品自主衛生管理認証制度」

食の安全・安心に対する社会的評価が高まります

- ①消費者から自主的な衛生管理の取り組みへの努力が評価されます。
- ②第三者機関が認証することで客観的に評価され社会的信用が得られます。
- ③食中毒などの発生リスクが低減します。
- ④大掛かりな設備投資をしなくても衛生水準が上がります。

※右表は当協会がこれまでに認証した施設名(平成22年3月31日現在)

カキ作業場(2類)	クニヒロ株式会社 占部水産株式会社 有限会社北吉水産 株式会社ヒロシヨク 倉橋島海産株式会社 マルヒロ水産株式会社 広島県漁業協同組合連合会 株式会社大久加工事業部 株式会社オオノ	加工のり製造業	株式会社やま磯 株式会社三國屋戸内工場 広島海苔株式会社海田工場 丸徳海苔株式会社
	弁当・そうざい製造業	株式会社あじかん 株式会社フレッシュセブ本工場 株式会社フレッシュセブ第二工場 株式会社フレッシュセブ第三工場 わたやごちそうデリカ	菓子製造業(洋生菓子)
煮豆・佃煮製造業 GPセンター	宝山食品工業株式会社 全農広島鶏卵株式会社 三次GPセンター 世羅GPセンター	菓子製造業(和生菓子)	株式会社藤い屋本店工場 株式会社藤い屋広島支店工場 株式会社やまだ屋本店工場 株式会社やまだ屋大野工場 株式会社藤い屋本店店舗実演コーナー
		菓子製造業(その他)	株式会社藤い屋広島支店工場 株式会社やまだ屋本店工場 株式会社やまだ屋大野工場 パッセンモーツアルト



〇問合せ先〇
〒730-8631 広島市中区広瀬北町9-1 (財) 広島県環境保健協会
環境生活センター分析三課 TEL: 082 (293) 1514 (ダイヤル) FAX: 082 (293) 8010